

事業計画名

旧式織機の電子化による国内最高品質の綿ストール開発体制の確立

旧式織機は、新型織機にはない柔らかで高級感のある質感を表現できる半面、アナログであるため、デザインの自由度や、製品開発スピードに課題がある。そこで旧式織機の電子化を図り、旧式の質感を保ちながらデザイン性や製品開発の強化を図った。

取り組みの背景

西脇市をはじめとする播州織の産地では、明治初期から綿織物を生産しており、特に旧式の織機で細い糸をしなやかに織る技術では高い評価を得ている。

旧式織機は、現代の織機にはない柔らかな風合いや高級感を表現できる一方、デザイン性に制約が掛かるだけでなく、パソコン上で描いたデザイン画をアナログに戻して織機に伝達するなど、製品開発においてデザイン性、開発スピードに問題があった。

阿江ハンカチーフ(株)は国内最高品質の綿ストールを「orit.」としてブランド展開している。アパレル市場ではデザインの多様化、製品開発スピードが重要であるため、旧式織機の電子化を図り、旧式織機の最高品質を保ちながらデザインの自由度や開発スピードを高めることを実現した。

取り組みの目標

- 開発スピードの短縮
- デザインパターンのバリエーション増加
- 試作数の増加

取り組み内容

旧式織機ではパンチカードを用いてさまざまなデザインの布を織る。パンチカードは紙に穴を開けて情報を記録するもので、プログラミングの原点ともいえる。しかし、デザインに応じて紙に穴を開け、

修正する場合は紙をつなぎ合わせるという非常に原始的な工程を踏まなければならない。1.8mのストールを織る場合は20mのパンチカードが必要となり、デザインしたものを製品化するためには相応の手間と時間を要し製品開発の障害となる。また、デザインもパンチカードの特性上で制約が掛かり、デザインが最も重要であるアパレル製品において自由度が制限される。

そこで、パンチカード機能を電子化し、デザイナーがパソコン上で描いたデータをそのまま旧式織機に信号で送れるように。同時に旧式織機に電子織ネームジャカード装置も搭載し、旧式織機で織られた高品質の布に複雑な柄やネームなどを自由に表現できるようになった。

それにより、旧式織機と同社の技術による、最高品質ストールの製品開発スピードが向上し、自由で多様なデザインが可能となった。



POINT1：改造後の織機



POINT 1

シルクの風合いで高品質の綿ストール

同社独自の細糸織り技術により、旧式織機を用いて、限りなく細い糸（80、100番手）でストールを製造している。シルクのような光沢や風合いで、非常に柔らかいのが特徴で、50cm×180cmで35gと極めて軽い製品も生み出す。パンチカードの電子化で、世界トップクラスと評価される高品質の綿ストールをより早くデザイン性豊かに生産できるようになった。

POINT 2

自由で独自性のあるデザイン

パンチカードの電子化により、デザイナーの描くデザインの幅が広がった。さらに、国内初の旧式織機のジャカード電子化で、さまざまな文様やブランドロゴをストールに織り込むことが可能になった。他社にないデザインを作り出すオリジナルの技術として、同社の強みとなっている。



阿江ハンカチーフ株式会社

●事業内容

ハンカチ、ストール（自社ブランド）、シャツ生地等の製造。デザインから製品化までの一貫受注

●主要生産設備

ドビー装置付シャトル織機、ドビー装置付レピア織機、ジャカード装置付高速レピア織機など

所在地：〒679-0212 兵庫県加東市下滝野593-1

T E L：0795-48-2031

F A X：0795-48-4602

設立：昭和23年12月

代表者：代表取締役社長 阿江 克彦

従業員数：14人

資本金：1,000万円

<http://www.aehandkerchief.jp/>

同社の強み

長年の技術蓄積で世界トップクラスと評価される細糸織り技術とそれを用いた製品作り

Comment

代表取締役社長 阿江 克彦氏



播州織産地の技術を生かし革新を

明治元年創業、私で5代目になります。播州織は先染めによる平織りのシャツ地が有名ですが、当社は先代からハンカチに特化することで業績を伸ばしてきました。

製品作りでは、産地でもっとも難易度が高いドビー織、ジャカード織の技術を駆使。高級細番手糸ならではの光沢と、軽くてしなやかな風合い・品質・織柄を実現する織物技術は世界トップレベルです。業界大手の間屋との信頼関係も厚く、OEM生産で5,000種類以上のブランドハンカチを世に出してきました。

ハンカチの製造では、四方を厚くしながらゆがみなく正方形に織ることや、切れやすい細い糸を使って多彩な模様を実現することに高度な織物技術が求められます。小さな布の中に無限の芸術があると考え、品質を追求し、その技術を使って平成25年に高品質ストールの自社ブランド「orit.」を立ち上げました。

産地には技術も設備もあります。しかし海外生産が盛んになり、播州織の産地も自社も止まっていたのは危ないという危機感を抱いています。産地で蓄積した最高の技術で他社にない製品作りを心掛け、厳しいアパレル市場で勝負をするからには、どこよりも高品質であることを求めます。技術を生かして革新し続けることが、当社も産地も必要と考えています。